

令和3年度 第1回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和3年 6月 4日 (金) 15:00～16:45

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員 6名 (五十音順)

佐野 忠文氏 (上松区区长)、中村 正行氏 (信州大学工学部教授)

藤井 純子氏 (東口メンタルクリニック臨床心理士)、松澤 雅子氏 (長野市PTA 連合会副会長)

松本 清氏 (長野運送 (株) 代表取締役)

鷺澤 幸一氏 (炭平コーポレーション (株) 代表取締役)

学校職員 11名

4. 懇談会

第I部 授業参観

(1) 開会・学校長あいさつ (15:03～)

・昨年度2月に280台のタブレットが導入され、本校においてもICTを活用した新たな学びが進んでいる。この後の授業参観で是非ご覧いただきたい。

(2) 概要説明 (ICT係)

・昨年度末に多数のタブレットを導入するに当たり、Wi-Fi環境の整備も行き、現在どこの教室でもWi-Fi接続が可能となっている。

・普通教室においても生徒が主体的に調べ学習等ができるようになり、教職員もタブレット端末を用いた新たな授業作りに取り組んでいる。

(3) 本日の授業について (定時制教頭)

・本日6時限目、2年生数学B (41名)、谷口教諭

タブレットを用いた双方向の協働的な演習、授業内容は「数列」

(4) 授業見学

(5) 懇談 (15:35～)

評議員：タブレットの他にノートを使っている生徒とノートを使わない生徒がいるが、ノートについてはどのような指導をしているのか。

学 校：ノートの使用については特別な指導をしていない。それぞれの生徒が理解を深めるためにノートの使用について試行錯誤を繰り返している。タブレットを使いこなすと、こんな使い方もあると教職員に教えてくれる生徒もいる。

評議員：宿題の提出等にも利用できるが、データを一定期間保存して成績のエビデンスとしているのか。

学 校：現段階では、そこまで進んでいない。

今後のタブレットの活用方法により課題等のデータは少なくとも1年間の保存は必要となり、当然成績のエビデンスとなり得る。

評議員：タブレットを用いた授業は時間配分が難しいと思われるが、職員の研修は行われているのか。

学 校：何度か研修を行っている。今後は、生徒の新たな学びとしてタブレットを使いこなしている職員を講師として研修会を実施したい。

評議員：学校全体がタブレットを用いた形式の授業へと移行し、電磁波によって体調を崩す生徒はいないのか。生徒の健康状態が心配である。

学 校：今のところそのような生徒はいない。今後、目を悪くする生徒が増えるのが心配である。

評議員：全ての生徒が意欲的に取り組んでおり、素晴らしい。ただタブレットを扱う姿勢が前屈みとなっており、姿勢の悪さが気になる。途中で背中を伸ばすようなりフレッシュの時間も必要だと感じた。

第Ⅱ部 学校評議員懇談会

(1) 開会 (15:55～)

(2) 学校長挨拶 (15:55～)

- ・本年度も学校運営に様々な新型コロナウイルス感染症の影響があるが、感染症防止対策をしっかりと行う中で、できる限り計画したものは実施したい。2年生の台湾研修旅行は九州に変更した。6月の芸術鑑賞は中止とし、クラスマッチは感染防止対策をしっかりと行い実施した。
- ・県内では、部活動を通してクラスターが発生した高校もあるが、本校は感染対策を徹底しており、幸い発生していない。コロナ禍の中、複数の班で県大会出場を決めている。
- ・金鷄祭は、外部からの来校者は保護者限定で行う方向である。
- ・学校全体にICT化が進んでおり、いつコロナ感染症により休校となってもすぐにオンライン授業が実施できるよう準備をしている。また、職員会議もペーパーレス化を進めている。

(3) 自己紹介 (高校職員のみ)

(4) 学校の状況について (16:05～)

①全日制の概況：(全日制教頭)

- ・学校全体がとても明るい雰囲気である。
- ・コロナの影響で、新入生の班活への参加状況が心配であったが、本年度は290名(昨年度285名)と、特に減ることもなくよかった。高校入試でもコロナの影響があり、例えば数学では三平方の定理は除くなど、出題範囲が狭まった。抜けた部分を補いながら、学力の定着を目指したい。

②生徒指導係より

- ・落ち着いた新年度を迎えた。4月～5月まで交通事故1件、生徒へ注意喚起を促す。
- ・コロナの影響もあり、保健室を利用する生徒数が増加している。心の健康相談、カウンセリング等を引き続き実施する。

③NGP係より

- ・文部科学省に指定されたSGH事業の後継事業である。グローバルな視点で社会を捉える、生徒自らが取り組む探究型の活動である。
- ・3年生のNGP選択者の「食品ロス」や米国リーダー研修の代替としてオンラインでアニメについて海外学生と語り合う取り組みがあり、好評であった。

④進路指導係より

- ・本校の進路指導は1年間を通して年度当初の進路指導計画に基づいて行われている。
- ・2021年度入試結果は、卒業生277名に対して206名の合格者、合格率は約74%であった。中・後期の合格者が多く、最後までよく粘った。
- ・共通テストについては、普段より探究的な授業に慣れている本校生にとっては、比較的答え易かったのではないかと。

⑤生徒会係より

- ・新型コロナ感染症対策として、本年度の応援練習は中庭で、クラスを分けて実施した。現在、金鷄祭に向けて準備を進めているが、計画したものは実施できればと考えている。

⑥定時制の状況について：(定時制教頭)

- ・今年度新入生は4名、全体で29名の生徒が在籍。アットホームな教育活動を展開している。例えば、複数の学年の生徒が混在する講座もある。
義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いが、現在は頑張って、毎日登校している生徒がほとんどである。
- ・昨年度の卒業生の進路は、就職と進学がほぼ半々であった。
- ・給食の際には長机に一人、黙食の実施等のコロナ感染症対策には万全を期している。

⑦今年度の学校評価について：(定時制教頭)

- ・重点目標の4に「衛生的な」を付け加えた。(全日制)
 - ・評価項目の5に「校外での活動等を通して」を付け加えた。(定時制)
- 各議員に依頼

(5) 意見交換

評議員：地区行事等ではグラウンドをお借りするなど、長野高校とは様々な場面で地域と連携を図っている。今後も是非よろしくお願ひしたい。

評議員：私立大学合格者の中で特に中央大学、立命館大学が多いのは何か理由があるのか。

学 校：この2大学は地方入試を実施しており、県内での受検が可能となっていることが大きな理由だと考えられる。

評議員：地元に残る優秀な人材を確保したいが、県立大の受検者数が少ない理由は何か。

学 校：生徒が大学で研究したいと考える内容が合わないこと、また受験日が少し特殊なことが考えられる。

評議員：大学のオープンキャンパスについて、新型コロナ感染症対策による生徒の行動規制は何かあるのか。

学 校：長野県教育委員会のガイドラインに沿って行う。生徒には、基本的には大学に出かけて行って、しっかり見てくるように指導している。

評議員：班活動に参加する生徒の数が減らずに安心した。大学合格状況を見ると、西より東日本の大学を受検している傾向が見られるが、何か理由があるか。

学 校：特別な指導はしていない。年によっては西の大学が多い年もある。班活の人間関係の影響か、友達の関係か、たまたまである。

2年次にバスに乗って、東北大、筑波大のオープンキャンパスに出かけた影響もあるかもしれない。

(6) 校長より御礼の言葉

(7) 閉会 (16:45)